

2月

新着図書

よむよむかたる

著者名： 朝倉 かすみ
出版社： 文藝春秋

本を読み、人生を語る。人が生のままの姿になり言葉が溢れだす。そんな幸福な時間をぎゅっと閉じ込めたい、という願いが込められた物語です。小樽の古民家カフェ「喫茶シトロン」には今日も老人たちが集まる。月に一度の読書会〈坂の途中で本を読む会〉は今年で20年目を迎える。それぞれに人の話を聞かないから予定は決まらないし、連絡は一度だけで伝わることもない。なぜ老人たちは読書会を目指すのか。読みが語りを生み、語りが人生を照らし出す。幸福な時間が溢れだす、傑作読書会小説。

飽くなき地景

著者名： 荻堂 顕
出版社： KADOKAWA

不動産事業で成り上がった昭和の旧華族、烏丸家。その嫡男として生まれた治道は、多数のビルを建て、東京の景観を変えていく家業に興味を持たず、祖父の誠一郎が所有する宝刀「無銘」の美しさに幼いころから魅せられていた。家に伝わる宝を守り、文化に関わる仕事をしたいと志す治道だったが、祖父の死後、事業を推し進める父・道隆により、「無銘」が渋谷を根城にする愚連隊の手に渡ってしまう。治道は刀を取り戻すため、ある無謀な計画を実行に移すのだが……。

秘色の契り 阿波宝暦明和の変 顛末譚

著者名： 木下昌輝
出版社： 徳間書店

江戸時代、こんなにややこしい殿様は他にいなかったかもしれない。小藩から25万石の大藩に養子入りし、苛烈な藩政改革に取り組んだ。誰にも負けぬ弁舌と知識、厳しい儉約令と公共投資の両立、当時の身分制度を破壊する新法、そして、どこにもない市を生み出そうとしたが……蜂須賀重喜という男が愚者なのか賢者なのか、勝者なのか敗者なのか。皆様の目で確かめてください。

バーニング・ダンサー

著者名： 阿津川 辰海
出版社： KADOKAWA

全世界百人の能力者——「コトダマ遣い」。特殊設定ミステリの気鋭が贈る、能力者vs.能力者の警察小説！

虚の伽藍

著者名： 月村 了衛
出版社： 新潮社

より多くの金をつかんだ者が京都を制する——最後に嗤うのは仏か鬼か。日本仏教の最大宗派・燈念寺派で弱者の救済を志す若き僧侶・志方凌玄。バブル期の京都を支配していたのは、暴力団、フィクサー、財界重鎮に市役所職員……古都の金脈に群がる魑魅魍魎だった。腐敗した燈念寺派を正道に戻すため、あえて悪に身を投じる凌玄だが、金にまみれた求道の果てに待っていたのは——。圧巻の社会派巨編。

藍を継ぐ海



著者名： 伊与原 新
出版社： 新潮社

数百年先に帰ってくるかもしれない。懐かしい、この浜辺に——。なんとかウミガメの卵を孵化させ、自力で育てようとする徳島の中学生の女の子。老いた父親のために隕石を拾った場所を偽る北海道の身重の女性。山口の島で、萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男——。人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来。きらめく全五篇。

地雷グリコ

著者名： 青崎 有吾
出版社： KADOKAWA

射守矢真兎(いもりや・まと)。女子高生。勝負事に、やたらと強い。平穏を望む彼女が日常の中で巻き込まれる、風変わりなゲームの数々。畏の位置を読み合いながら階段を上ったり(「地雷グリコ」)、百人一首の絵札を用いた神経衰弱に挑んだり(「坊主衰弱」)。次々と強者を打ち破る真兎の、勝負の先に待ち受けるものとは——ミステリ界の旗手が仕掛ける本格頭脳バトル小説、全5篇。

本当にあった幸せな気持ちになる50の物語

著者名： 西沢 泰生
出版社： 三笠書房

シリーズ累計15万部突破、感動のベストセラー！街角で、学校で、駅で、職場で……今日もどこかで、こんな「物語」が生まれています。この本には「本当にあった、いい話」を、たくさん集めました。気づかい、優しさ、励まし、思いやり、「ありがとう」……世の中は、思っているよりも、ずっと優しい。ずっと温かい。きっと心に「いい気分」を運んできてくれます。